

## はじめに

日本考古学の黎明期、石塔は研究対象として積極的に調査・報告され、研究されてきました。ところが、埋蔵文化財の緊急発掘調査が急増するなか、出土品を中心とした研究が盛んになると、身近な石塔は忘れ去られたかのように、報告書や論文集から姿を消してしまいます。その後、石塔は、美術鑑賞の世界のなかで、石仏などといっしょに評価されるようになりますが、考古学の世界からはあまり注目されなくなってしまうです。

近年になって、ようやく中世や近世の考古学情報が集積されるなかで、同時代の貴重な資料として、石塔が注目されるようになってきました。最初は金石文を豊富にもつ板碑の研究が主流でしたが、最近では五輪塔や宝篋印塔、層塔などの石塔が各地で報告され、研究の対象とされるようになってきました。ところが、その報告には、三者三様の傾向があつて、なかなか統一した資料の提示がなされていないのです。考古学の中でその物差しとなる土器研究が大きく発展したのは、その実測の仕方や実測図の提示の方法が早くから統一されてきたことが功を奏していることは疑いありません。その観点で言えば、石塔も写真だけではなく、実測図を示すことが重要であることは明々白々です。

こうなると、実測図の作成方法を含めた、石塔の資料化について整理し、提示してみようではないか、というのが本書を作るきっかけだったのです。

ただ、実測図というものは、その性格上、実測する者の目的に応じて着眼点を決め、作成されるものですから、その違いを無碍に否定するのは好ましくありません。その点を踏み外さないために、本書では、「描き方の基本方針」の項を用意しました。また、実測図を「資料認識の表現」であると考え、できるだけ実測者の経験と判断が盛り込まれることを前提にした実測法を提示することにしました。機械でも描ける図は機械に任せて、やはり実測者が石塔を観察して、理解した結果を図に反映させたいのです。

こうなると、「石塔の特徴が理解できていないと測れない」ということになります。さらに、人間の目は意識的に見る物しか見えないという特性を持っていますから、どの部分を見るかということが重要になってきます。つまり、その部分を見ることによって、何が明らかになってくるのか、という目的意識が重要になるのです。見る場所・部位と目的の再認識は新しい発見へとつながるのですが、それは実測を通して得られることが多いのです。

そこで主要な石塔については、実測図の作成法とともに、細部の着眼点や注意点を記すようにし、一般的な特徴や傾向を示しながらも、部分的にはかなり細かな着眼点まで提示して、この書物を利用していただく方々の目を助けたいと思います。

また本書では、実測図の作成法だけでなく、石塔の記録作成という観点から、拓本と写真についても取りあげました。拓本の採取法や写真の撮影法は、専門書がいくつも出版されていますが、記録としての拓本・写真という立場から、それぞれの章を用意して、石塔調査への応用を目的としてやや詳しく述べました。

これらの実測・拓本・写真は、石塔調査記録の三点セット、いや三種の神器と言ってもよいでしょう。それほどそれぞれの役割は重要で、また他者を補いあうものなのです。

休日の麗らかな陽気の中で、屋外に出て石塔を調査するのは実に楽しいものです。もちろん、研究対象としてそれを熟覧することを主な目的としていますが、実測・拓本・写真などすべてをこなすと、相当長い時間、一基の石塔と向き合うことになります。細かく観察していると、やがて石工の息づかいが聞こえ、石塔に結縁した人々の想いが伝わってくるでしょう。しっかりと聞き取りたいものです。

平成二八年（二〇一六）十一月三日

藤澤典彦  
狭川真一

# 目次

はじめに

## I 石塔の見方 時代判定のコツ

1章	層塔	古代の石塔……	8
2章	宝塔	真言・天台と地方色……	26
3章	五輪塔	時代のわかる観察ポイント……	32
4章	蓮弁と格狭間	表現の意味……	54
5章	宝篋印塔	源流と新旧関係……	64
6章	仏様の姿	木彫仏を知る……	80

## II 石塔と向き合う 実測調査のツボ

### 1章 実測の基本とアイテム……………98

- 1 実測図の4タイプ／2 作図の基本10箇条／3 必須アイテム／
- 4 真弧の作り方

### 2章 五輪塔の測り方 手順と着眼点……………118

- はじめに／1 五輪塔の部材／2 地輪の測り方／3 水輪の測り方／
- 4 火輪の測り方／5 空風輪の測り方

### 3章 宝篋印塔の測り方 手順と着眼点……………134

- はじめに／1 基礎・塔身の測り方／2 笠の測り方／3 相輪の測り方

### 4章 層塔の屋根と宝塔の塔身……………146

- はじめに／1 屋根の測り方／2 宝塔塔身の測り方

### 5章 荘厳部の測り方 反花座・基壇・格狭間・仏像・梵字・銘文……………152

- はじめに／1 反花座の見方・測り方／2 基壇の着眼点／3 格狭間の観察点／

4 仏像の着眼点／5 梵字の着眼点と測り方／6 銘文の着眼点／

7 真弧による形取法／8 自然石を生かした石塔／コラム 写真測量や三次元計測の図面

## 6章 拓本の採り方

はじめに／1 拓本の利点と欠点／2 拓本の採取法／3 拓本資料の保管法／

4 拓本墨の作り方

176

## 7章 写真の撮り方

はじめに／1 カラーかモノクロか／2 光線の当て方／3 写真の目的

186

おわりに

192

あとがき

194

引用文献一覧

欠字引き年号索引

# I 石塔の見方 時代判定のコツ

場 所…元興寺文化財研究所

総合文化財センター

日にち…二〇一六年六月二十七日

参加者…

藤澤典彦(元大谷女子大学教授)

狭川真一(元興寺文化財研究所副所長)



石塔の見方を語り合う  
藤澤典彦氏(左)と狭川真一氏(右)

# 1章 層塔 古代の石塔



2. 韓国 長蝦里三層石塔



1. 石塔寺層塔

## ● 謎の石塔寺層塔

—— 石塔のどの部分を見れば良いのか、紀年銘のない石塔を見て、いつの時代のものなのかをわかるようになりたいと思っている人のために、最初にお二人が石塔のどの部分を観察して、どのように年代を想定しているのか、レクチャーしてもらいたいと思います。まずは、古代の様相を知らない、中世・近世はわかりませんから、古代の石塔から始めましょう。日本古代の石塔には、どんなものがあるのですか？

狭川 日本で一番古いと言われている石塔は、奈良の龍福寺層塔・塔の森六角十三重塔・二上山の鹿谷寺跡十三重塔・岩屋層塔あたりでしょう。

藤澤 僕は滋賀県の石塔寺(いしどうじ)(東近江市石塔町)の層塔が古いと思っているけど、狭川さんは違うみたいね。